

2023年度
入学試験問題
(B 日程)

国 語

注 意

- 1 「開始」の合図があるまで開いてはいけません。
- 2 「開始」の合図で、1/5から5/5まで問題が印刷されていることを確かめなさい。
- 3 解答用紙に受験番号を書きなさい。名前を書いてはいけません。
- 4 答えはすべて解答用紙の指定された解答らん^{らん}に書きなさい。問題用紙に書いても得点になりません。
- 5 解答用紙はこの表紙の裏にあります。
- 6 「終了」^{しゅうりょう}の合図で、すぐに筆記用具を置きなさい。
- 7 問題および解答用紙は机の上に置き、持ち帰ってはいけません。

一 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

十三歳の「僕」は、幼い頃に服用していた薬の副作用で十歳頃から身長が伸びなくなってしまいが、その小柄な体をいかそうと考え、サーカスで働き始める。

「クリニックラウン？」

前の晩、道具の準備をするというトロの手伝いをしながら、話を聞いた。

「病院とか老人ホームとか刑務所とかに出向いて、その人達の心をケアすることを目的にした*クリニックラウンのことよ。ホスピタルクリニックとか、ケアリングクリニックとも言うわ」

最初はただ赤ん坊のお守り役として同行するはずだったのだけど、ローズの提案で、急ぎよ僕もクリニックの格好をして、トロとローズと一緒にクリニックラウンをすることになった。

①「そうさ、ボランティア活動の一環だよ」

トロの目は、いつになく輝いている。継ぎはぎだらけの巨大ズボンにアイロンをかけながら、鼻歌まで口ずさんでいた。(略)

ぶっつけ本番だった。最低限の打ち合わせだけして、いきなりみんなの前に立つ。基本的にはトロがメインでクリニックをやり、ローズがそれをサポートし、僕がちよこまかと動く。赤ん坊も変な衣装を着せられて、ローズの背中におんぶされていた。僕は、顔に星印のかかれた小さなピエロ役だ。

トロは、クリニックをえんじているという感じがAなくて、本当にそういう人物のようには見えなかった。小児病棟では、次々と風船を膨らませていろんな動物に変形させ、孤児院では外のバルコニーで、大きなシャボン玉をたくさん浮かび上がらせた。

もつとも印象的だったのは、老人ホームでの出来事だ。中にひとり、どうしても笑わないおじいさんがいた。病気で片足を失った人だった。会場に集まったお年寄り達の表情が、トロのクリニック芸によって少しずつほぐれていく中、そのおじいさんだけは、ずっと蠟人形みたいに固まっていた。

施設の人とローズが話しているのを小耳に挟んだのだが、どうやら足を失くしてからというもの、一度も笑っていないのだという。おじいさんは、A目を開けたまま死んでいるように見えた。僕は正直、近づくのさえ恐ろしかった。

けれど、トロはそのおじいさんの前で、何度も何度もおかしな芸を披露した。すると、おじいさんがかすかに表情を緩め、笑ったのだ。すかさずローズが、おんぶ紐を解いて、赤ん坊をおじいさんのベッドの上にアズける。おじいさんは、ぎこちない手つきで赤ん坊の体を支えた。こんな小さな生き物にどうやって触れたらいいのか、途方にクれているのだと言わんばかりの硬い表情で、けれど目には少しづつ、優しい色が満ちてきた。

②ローズが背中を押したので、僕もおじいさんのそばに近づく。それから手を伸ばし、おじいさんの肩や背中に触れた。そこまですると、手は勝手に動き出した。体をさするのは、グランマで慣れている。優しくゆっくり弧を描くようにさすっていると、蠟人形だったおじいさんの体が、だんだん僕の熱で柔らかくなっていくのが手に取るようにわかった。僕は、おじいさんの背中をさすり続けた。

「少年、いい仕事だったよ」

すべての慰問を終え、帰りに公園に寄って顔の化粧を落としていると、洗顔フォームを泡だてながらローズがほめてくれる。だけど僕としては、反省点だらけだった。

「ジャグリングのボールは落つことしちゃうし、その瞬間頭が真っ白になっちゃってさ。でも、トロのクリニックは、本気ですごいと思ったよ。びっくりした。なんか、入っちゃってるっていうか」

「入っちゃってる？」

思い出すと、まだ背中がぞくぞくする。

「うん、気合いつているのかな。今思い出しても、鳥肌が立ちそうになっちゃうよ」

「そっか、少年もやっぱりそれを感じるのね」

両方のほっぺたに白い泡を塗りつけながら、ローズがつぶやく。やっぱり、ってことは、ローズも同じふうに感じていることだろうか。

「なんか、いつものトロと違う気がした」

僕は、慎重に言葉を選んだ。

「そうなのよね、ふだんのトロのクリニック芸より、クリニックラウンをしている時のトロの方がさ、なんていうかこう……」

そこまで言いかけると、ローズは豪快に水しぶきを飛び散らせながら、冷たい水で顔を洗う。

③「クリニックラウンの時の方が、いきいきしているよね」

僕は、どさくさに紛れて言った。もしかしたら、水の音でローズには聞こえないかもしれないと思いながら。僕も、水道の水で顔をすすいだ。

顔を上げると、すっぴんに戻ったピカピカの顔で、ローズがじっと僕を見ている。そしてひとこと、こうつぶやいた。

「やっぱり、クリニックラウンとしてのトロの方が、いいエンジンをやるわよね」

当のトロは、赤ん坊を連れて箱の中で着替えているらしい。箱に戻るまでの道すがら、ローズともう少しトロについて話した。

「トロはね、子どもの頃、転落して足を怪我したでしょ？ かなり重傷で、何か月も入院していたらしいの。お医者様は車椅子の生活になるかもしれないって言ったみたい。でも、トロはすぐががんばってリハビリに励んで、自力で歩けるようになったの。お医者様も周りの家族も、みんなびっくりしたってマダムが言ってたわ。」

トロ、子どもの頃、綱渡り師になったんですって。でも、怪我をしたから、どうしてもその夢はあきらめなくちゃいけなくなったの。だからきつと、レインボーサーカスの舞台に立つと、その悔しさをみたいのを、思い出しちゃうのかもね。それで、本当はクリニックなんかやりたくなかったのっていう気持ちだが、無意識のうちににじみ出ちゃうんじゃないかしら。だから、ふだんのトロのクリニック芸って、なんかこう、深くないっていうか、面白味に欠けるのよね」

ローズは、一気に喋った。

④「でも、それはもうどうしようもないことでしょう？」

「うん」

僕だって同じなのだ。この十歳の体から抜け出せないことは、どうしようもない。

「だからきつとふだんのステージに立つと、変な劣等感がトロを支はいしてしまふんじやないかしら？ でも、クリニクラウンの時は、それが出ないの。だって、相手も傷ついた人達だから。トロはまだ、運命と和解ができていないのよね。私が偉そうに言えることではないんだけど」

それからローズは、とても哀しそうに微笑んだ。

運命と和解する、か。その言葉が、僕のあばら骨の辺りに奇妙な格好で引っかかっていた。

「トロのこと、よくわかってるんだね」

向こうの箱のコマドに、トロの頭が見えている。

「そりゃ、そうよ。奥さんだもん」

ローズが、自慢するように胸を張る。顔は普通なのに衣装だけはまだクラウンだから、ちよつとちぐはぐで間抜けっぽい。

「でも、僕の両親みたいに、夫婦でも気持ちが悪く離れて、わかれちゃうってこともあるでしょう？」

「そうね、そうだったわね。夫婦になったからって、一生愛し合うホシヨウはどこにもない。少年は、小さな体で、いろんなことをいっぱい知っているんだね。あ、ごめん」

小さいと言ったことに気づいて、すぐにローズが謝った。

「いいんだよ。僕の体は小さいんだもん。そのことを受け入れなくちゃ、前に進めないから」

結局、いくら願っても否定してもじたばたしても、事実として変わらない。自分の意思で変えることができるのは、心だけだ。体が変わらないのなら、心を変えていくしかない。

「あー、おながが空いちちゃったね」

ローズが、子どもっぽい声で言う。

秋から冬へと急ぐ空はもうすでにくれ始め、今にもとろけそうな色をたたえている。目を閉じると、何度でも、おじいさんの笑顔がよみがえった。子ども達の瞳が、見事な星空となって僕のまぶたを埋め尽くした。

「人を笑わせたり喜ばせたりするって、素敵なことだね」

僕は、この大切な気持ちがどうかローズにも目減りすることなく伝わりますようにと願った。本当は、背中を押されたらすぐに涙がこぼれてしまいそうなほどに、感動していたのだ。今回の慰問で、大切な贈り物をもたらしたのは自分の方なのだと思えた。

「ほんと、人を笑わせるってことは、人を傷つけたり哀しませたりすることより、百倍も千倍も難しいわ。人生の哀しみを知らなくちゃ、相手を笑わせることなんてできないもの。孤独を知っているからこそ、みんながバカ笑いでいる幸せをありがたく思えるのよ」

僕は衝動的に、ローズと手をつなぎたくなった。でも、その気持ちを必死にこらえた。

(小川糸『サーカスの夜』)

*クラウン……サーカスの道化師。

*グランマ……「僕」の育ての親。

*マダム……サーカス団の団長の妻で、トロの母親。

問一 線部1〜5のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 線部①「トロの目は、いつになく輝いている」とありますが、このときのトロの様子の説明として最も適当なものを次のア〜エから選び、記号で答えなさい。

ア 「僕」にクリニクラウンの意義を説明することができて、満足している様子。

イ クリニクラウンをしに行くのがとても楽しみで、準備にも心が弾んでいる様子。

ウ 「僕」も一緒にクリニクラウンをすることになって、心強く思っている様子。

エ クリニクラウンの打ち合わせは万全で、前日であっても気持ちに余裕がある様子。

問三 Aには同じことばが入ります。あてはまることばとして最も適当なものを次のア〜エから選び、記号で答えなさい。

ア とても イ あたかも ウ てんで エ まるで

問四 線部B「小耳に挟んだ」・C「道すがら」のことばの意味として最も適当なものを次のア〜エから選び、それぞれ記号で答えなさい。

B 小耳に挟んだ (ア 注意して熱心に聞いた イ うわさなどの情報をすばやく聞きつけた ウ 思いがけないことを聞いた

エ 聞くともなしにちらりと聞いた)

問五 線部②「僕もおじいさんのそばに近づく」とありますが、この行動を起こした「僕」の気持ちを説明したものととして、最も適当なものを次のア〜エから選び、記号で答えなさい。

ア 一人だけどうしても笑わないおじいさんの存在に気づき、最初は戸惑っていた。しかし、トロのクラウン芸に負けていないで、自分も何とかしておじいさんを笑わせようと考えた。

イ 一人だけどうしても笑わないおじいさんの存在に気づき、最初は違和感しかなかった。でも、ローズに背中を押されたので、しぶしぶおじいさんの心を和ませようと考えた。

ウ 最初は無表情なおじいさんにおびえていたが、表情が少しずつ変化してきたことに気づいた。さらに、ローズの促しもあり、勇気を出しておじいさんのケアに当たろうと考えた。

エ 最初は無表情なおじいさんにおびえていたが、トロの芸を見てかすかに表情を変えたおじいさんに親近感を持った。そして、今なら自分も安心して働きかけができると考えた。

問六 — 線部③ 「僕は、どきどきに紛れて言った」とありますが、この時の「僕」の気持ちを説明した次の文章の（Ⅰ）～（Ⅲ）にあてはまることばを本文から五字以内で探して書きぬき、（Ⅳ）は十字以内で考えてそれぞれ答えなさい。（ ）、 。 記号は字数に数えます。）

老人ホームでトロが見せたクラウン芸に、（Ⅰ）のようなものを感じて「僕」は（Ⅱ）するほど興奮した。しかし、いつものサーカスより（Ⅲ）していたという感想が、トロに対して（Ⅳ）ということをも、「僕」は気にしていた。

問七 — 線部④ 「それはもうどうしようもないこと」とありますが、「それ」が指す内容を四十字以内で答えなさい。（ ）、 。 記号は字数に数えます。）

問八 — 線部⑤ 「その言葉が、僕のあばら骨の辺りに奇妙な格好で引っかかっていた」とありますが、これは「僕」のどのような気持ちをたどえたものですか。四十五字以内で説明しなさい。（ ）、 。 記号は字数に数えます。）

問九 — 線部⑥ 「すぐにローズが謝った」とありますが、ローズが謝ったのはなぜですか。最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 「僕」は少年なのに大人びた言い方をするとからかったつもりが、「僕」の小さな体からかうような表現になってしまったから。
イ 「僕」の体がこれ以上成長しないことを理解していたつもりが、本音がつい出て、「僕」の小さな体をばかにしてしまったから。
ウ 「僕」は子どもなのに物事をよく知っているとはめたつもりが、「僕」の小さな体からかうような言い方になってしまったから。

エ 「僕」は幼いのに大人の事情がわかっていると聞いたつもりが、実は未熟な「僕」を軽んじて見ている本心が出てしまったから。

問十 — 線部⑦ 「今にもとろけそうな色をたたえている」とありますが、この表現から「僕」のどのような様子が読み取れますか。最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 「僕」が徐々に眠くなってきた様子 イ 「僕」の心が満たされている様子 ウ 「僕」が少し寂しくなっている様子
エ 「僕」の心が高ぶっている様子

問十一 — 線部⑧ 「今回の慰問で、大切な贈り物をもたらしたのは自分の方なのだ」とありますが、「僕」が気づいたのはどのようなことですか。四十字以内で説明しなさい。（ ）、 。 記号は字数に数えます。）

問十二 — 線部⑨ 「僕は衝動的に、ローズと手をつなぎたくなくなった」とありますが、それはなぜだと考えられますか。最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 今の「僕」がかかえている孤独をローズが理解してくれていることを知り、感謝の気持ちを示したかったから。
イ 今の「僕」にとつて心から笑うことは難しいが、笑うことの大切さをローズが教えてくれてうれしかったから。
ウ 今の「僕」と同じくらいにローズも感動していたため、仲間としてのきずなが深まりそうだと予感したから。

エ 今の「僕」の感動がちゃんと伝わったばかりか、ローズとは人生の哀しみをも分かち合えそうな気がしたから。

問十三 本文を読み終えた後、A～Eの生徒五人にひと言ずつ感想を述べてもらいました。本文の内容を正しく理解できていない生徒の感想を次のア～オから一つ選び、記号で答えなさい。

ア Aさん 「私は、トロがこれから自分の運命を少しずつ受け入れて、クラウン芸をますますきわめていってほしいと思いました。」
イ Bさん 「クラウンはサーカスの途中におどけたしぐさで人を笑わせるけど、実は人を笑わせるって難しいことだと知りました。」
ウ Cさん 「『僕』の体が小さいままだという事実は変わらないので、あきらめてクラウン芸をみがいっていったら良いと思いました。」
エ Dさん 「トロにとつても『僕』にとつても、ローズは気持ちをよくわかってくれる貴重な存在であるように私は感じました。」
オ Eさん 「気持ちの持ちようを変えて生きていこうとしている『僕』も、このサーカス団で今後、活躍していくことと思います。」

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

生物学の観点からギロン¹したいもうひとつの問題が「いじめの問題」です。人と違う^{ちが}から、「暗い、キモい」といって排除^{はいじょ}してしまう。その行為^{こうい}というのは、あえて強めの言葉で表すならば「ケダモノにも劣^{せつ}る」ものといえます。

動物の群れでは天敵に襲^{おそ}われたり、競合者にエサを横取りされたりするのを避けるためにも集団中に少しでも変わった行動をするものや、他個体より行動が鈍^{にぶ}いものなど、いわゆる「足手まとい」を排除する行為が見られることがあります。

例えば、レイヨウの群れでは体の弱い個体を追い出し、ライオンのエサにする行動が見られます。野生動物は同種の個体同士でも生存をかけて激しい競争を繰り返しており、こうした弱者の排除は遺伝的にプログラムされた行動といえます。しかし、現代の人間社会におけるいじめは、「弱者排除」を楽しんでいる、という点で、動物界で見られる生存をかけた行為とはベツジゲン²のものといわなくてはなりません。そして、このいじめ行為が黙認^{もくにん}され、社会に広がるとすればそれは人間のヒューマニティー³崩壊^{ほうかい}の危機と捉^{とら}えるべき問題だといえます。

ホモ・サピエンスという種としてわれわれ人間が地球上に現れたばかりのころ、人間たちは病気や敵の出現でいつ死ぬかわからず、毎日、怯^{おび}えながら生きている状態だったに違いありません。そのころは、人間同士の「よりせい」もより強かったであろうと想像されます。

しかし、およそ紀元前3000年～1500年前にお金という概念^{がいねん}ができて、人間の価値観は変わりました。ひとりひとりの人間が個として生きていく時代になったのです。

個になりたいのか、よりそいたいのかは、結局、環境^{かききょう}が決めてしまいます。現代のように環境が満たされていると「個」の生き方が優先されてしまうと考えられます。しかし、ホモ・サピエンスが誕生しての20万年～25万年のうち、貨幣^{かへい}社会はわずか5000年ほどの歴史しかありません。^③人間の脳はどちらにも対応できるようになっています。

それでも「助け合いの精神」があり、実行できるといのが人間の最大の特徴^{とくちょう}です。これはまさにヒューマニティーといってもいいでしょう。動物には血縁^{けつえん}のない他者への利他的行動（自己が不利益をかぶること、ほかの個体に利益^{あいた}を与える行動）というものがまったくありません。

哺乳動物の群れはだいたい血族です。ボスがいて、ボスの嫁と子どもたちで成立しています。ほかのオスが混じっても、ボスのハイカになりすす。

もし、野生動物のいる場所で、洪水が起きて、動物たちは一目散に自分だけ逃げます。その中で、ゾウは人間に近いコミュニケーションを持っています。川を渡るときによその子どもが流されそうなら、助けてあげます。それは、専門用語で「互恵的利他主義」と呼ばれる行動形式です。

これは、草食動物でたまに見られます。そうやって恩を売っておくと、今度は自分の子どもが助けてもらえる。彼らには「子どもを見たら助ける」という遺伝子が備わっているんです。

(A)、人間以外の生物のこの行動は、「子どもを守ることに特化しています。ケガをした仲間のゾウをかばうようなことはしません。そこまでのヒューマニティーはありません。あくまでも自分の子どもを守ることからハセイした行動です。」

もちろんヒューマニティーの究極目的は子どもを生き残らせることです。人間でも助け合いをしていると「あいつはいい奴だから、あいつが死んでも、あいつの家族を守ろう」とコミュニケーションとしての利他的行動が成り立ちます。

ヒロイズム、つまりカッコつけてする行動というのは、のちのち自分の家族が得をするためにヒトの間で進化したところがあります。自分の遺伝子子孫を生き残らせるという究極命題は、動物も人間も一緒ですが、人間の場合、この利他的行動の重要性が際立ちます。

社会の中で生きるには、利他的行動ができる人間じゃないと生き残れなかったと考えられます。「あいつは自分のエサのことしか考えてなくてダメだ。自分の家族にとつても必要ないから仲間外れにしよう」とコミュニケーションの中で合意がなされて、村八分にされてきました。

⑤村八分と現代のいじめは、社会全体にとって適応的であるかどうか、有害であるかどうか、という点で本質的に異なります。

現代のいじめというのは、集団にとつての有害性とは無関係に特定の人物を見た目やキモいという感覚・感情だけで仲間外れにします。本人が努力したり、勉強していても、いじめられる。これでは、単なるエゴイステックなうつぶん晴らしです。野生の社会ではむしろエゴイステックな振る舞いをするような個体は仲間外れにされるのが普通です。

(B) アメリカ大陸の熱帯地方に生息するチスイコウモリは、動物の血をエサとして、洞穴で群れを作って生活しています。子どもを持つ母親は毎日、エイヨウゲンとして吸血する必要がありますが、たまに狩りに失敗して血を吸い損なう日があります。(C)、スに戻った群れの仲間たちが血を吸えなかった個体に、自分たちが吸ってきた血を分け与えるという助け合いをします。そして、仲間に血液を分け与える頻度が高い個体ほど、たまに血を吸い損なったとき、より多くの仲間から血液をもらえという手厚い恩返しを受け、逆に、日頃から血液を分けることを渋っている個体は、いざ自分がエサ不足になったときに、ほかの個体からの援助を断られてしまう、ということが報告されています。

いじめのようなエゴが生じるのは、今の社会が食うに困らないからなんじゃないでしょうか。原始の人間社会では、予言をする盲目の老人、見てくれは悪いが鼻の利く人物など、社会にとつてそれぞれがDを果たしていて、お互いにEする関係性を大切にしてきたと想像されます。

日常的な助け合いを必要としなくなった現代社会において、特に都市部を中心に人と人とのつながりが希薄になる中、うつぶん晴らしで他者をいじめるといふ行為がむしろ社会の中で黙認されやすくなってしまっている。文明や文化が進んだ世の中の方が、人間としての成熟度が低下してしまうというのは、皮肉な話です。

いじめ問題は人類がヒューマニティーを失い、エゴイズムを噴出させた結果です。もし、なんらかの拍子に、エゴイズムの増殖が止まらなくなり、核戦争などで文明が崩壊し、本当に人間が自然界に裸で放り出されることになったら……。ケダモノに負けるのが人間です。

人間らしさを失ったときは、人間が崩壊、滅亡するときです。人間が強いと思うこと自体がエゴなんです。実際人間の子どもはみんなヒト現代の人間が強いのはあくまでも文明、文化という武器を持っているからです。おいしい水と食料があるからです。全部はぎとられ、ケダモノにかえったら、われわれは一番に滅ぼされます。

⑦本来人間は、滅びる確率が高い動物だったはず。霊長類の中で、突然変異で生まれた変わった変わり者です。実際人間の子どもはみんなヒトの手がないと生きられない未熟児として生まれます。二足歩行どころか、ハイハイもできず、エサも自分で食べられないような状態です。ほかの猿はみんな生まれてすぐに母親にしがみついて、自分でおっぱいを飲んで生きています。

多くの類人猿は森の中で生きているのに、われわれ人間はサバンナに追い出されたんです。自ら出たのではなく、木登りが下手で追い出されたんじゃないかと、私はいつも勘ぐっています。サバンナでは、立たないと周囲が見えないので二足歩行が進化した。そして、体が弱くなった分、頭で勝負するという方向に進化しました。

この章のまとめとしては、人間と野生動物には「ヒューマニティー」という違いがある。それはもちろん素晴らしいことだが、反面エゴイズムに傾くと、いじめ問題、さらには人間社会の崩壊につながりかねない。

人間自身の未来は生かすも殺すも人間のエゴ次第といったところでしょうか。

(五箇公一『これからの時代を生き抜くための生物学入門』)

* コミュニティ……共同社会。 * 互恵……お互いに特べつな利益を与え合うこと。 * エゴイステック(エゴ・エゴイズム)……自分本位。利己的。

* 命題……課せられた問題。

問一 線部1〜7のカタカナを漢字に、漢字をひらがなに直しなさい。

問二 線部①『ケダモノにも劣る』とありますが、筆者はなぜこのような言い方をしているのですか。それを説明した次の文の(I)・(II)にあてはまることばを本文から探し、三字以内でそれぞれ書きぬきなさい。()。記号は字数に数えます。

弱者を排除するという行為は、動物にとつて(I)に組みこまれた(II)のために必要なものだが、

おろかなことに人間はそれを楽しんでいるから。

弱者を排除するという行為は、動物にとつて(I)に組みこまれた(II)のために必要なものだが、おろかなことに人間はそれを楽しんでいるから。

問三 ――線部②「人間のヒューマニティー」とありますが、このことばについて説明しているところを本文から探し、解答らんに続くように二十字以内で書きぬきなさい。(、。記号は字数に数えます。)

問四 ――線部③「人間の脳はどちらにも対応できるようになっています」とありますが、何と何に対応できるのですか。最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 動物としての生き方とホモ・サピエンスとしての生き方
- イ お金を使う生き方とお金を使わない生き方
- ウ 環境に適応した生き方と「個」を大切に作る生き方
- エ 「個」を優先する生き方と他者とよりせい合った生き方

問五 ――線部④「ゾウは人間に近いコミュニケーションを持っていきます」とありますが、ゾウのコミュニケーションはどのような点において人間のコミュニケーションに近いと言えるのですか。最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア ゾウはどんなに自分が不利益をかぶったとしても、いつも他のゾウのためになる行動をとる点。
- イ ゾウにはボスがいてメスとつがいになり、さらに子どもが生まれて血族で群れを構成する点。
- ウ ゾウがわが子以外の子ゾウも守るといふ、自分のためにならなくても他者のためになる行動をとる点。
- エ ゾウはわが子を助けてもらうために、よその子ゾウを助けて恩を売っておこうと常に考えている点。

問六 本文中の(A) (C) にあてはまることばを次のア～カから一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ア 例え
- イ つまり
- ウ なぜなら
- エ ただし
- オ すると
- カ また

問七 ――線部⑤「村八分と現代のいじめ」の違いについて説明した次の文章の(I) (III) にあてはまることばを本文から探し、それぞれ指定された字数で書きぬきなさい。(、。記号は字数に数えます。)

「村八分」というのは、(I 五字) がとれない個体は(II 二字) にとつて有害だということ、仲間はずれにされたものである。それに対して「現代のいじめ」は、有害かどうかにかかわらず(III 五字) で他人を排除しており、単なるエゴイステイックなうつぶん晴らしになっている。

問八 〰〰線部「無関係」とありますが、このことばは二字の熟語の上に否定の「無」がついてできたものです。同じ構成の熟語である次の(1) (3) の□に、あてはまる否定の漢字一字をそれぞれ答えなさい。

- (1) □ 確実
- (2) □ 常識
- (3) □ 理解

問九 本文中の□ D ・ □ E に入ることばの組み合わせとして最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア (D 約束 E 尊重)
- イ (D 責任 E 刺激)
- ウ (D 役割 E 重宝)
- エ (D 任務 E 干渉)

問十 ――線部⑥「文明や文化が進んだ世の中の方が…：皮肉な話です」とありますが、これはどういうことかを説明したものととして、最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 文明や文化が発展して高度だと考えられている社会の方が、自分たちが強いと思えば、最終的には自ら滅亡を招いてしまうということ。
- イ 文明や文化が発展して高度だと考えられている社会の方が、他者とのつながりが薄くなり、エゴイズムをむき出しにしてしまうということ。
- ウ 文明や文化が発展して高度だと考えられている社会の方が、仲間のことを大事にしなくなり、他の動物に滅ぼされる存在になってしまうということ。
- エ 文明や文化が発展して高度だと考えられている社会の方が、互いに助け合うことをこぼみ、エゴイズムが増殖しやすくなっていると

問十一 ――線部⑦「本来人間は、滅びる確率が高い動物だったはずですが」とありますが、その理由について述べた次の文の() にあてはまるように、本文のことばを用いて三十文字以内で答えなさい。(、。記号は字数に数えます。)

本来人間は() 存在だったから。

問十二 本文の内容に合うものとして最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 人間以外の動物の習性を具体的に紹介し、それをよく理解することによって人間界で起きてしまう「いじめ問題」の解決につながる方法を提案している。
- イ 人間には「ヒューマニティー」があり他の動物と全く異なる存在であることを強調しながらも、動物の一員として避けられない「いじめ問題」に対する嘆きを訴えている。
- ウ 動物がより高度なものへと進化をとげる過程において、人間と同様の「いじめ問題」はどうしても避けられないことを生物学者の立場から主張している。
- エ 人間は動物でありながら「ヒューマニティー」を持つが、それが失われると「いじめ問題」のように残酷な一面を見せることを指摘している。

問一	1 アズ	ける	3 エンギ	5 ホシヨウ
	2 ク	れ	4 コマド	

問二 問三 問四 B C 問五

問六 I II III

IV

問七 問八

問十一

問九

問十

問十二

問十三

問一	1 ギロン	3 ハイカ	4 一目散	5 ハセイ
	2 ベツジゲン	問二 I <input type="text"/>		
	6 エイヨウゲン	II <input type="text"/>		
	7 ス			

問二 I II

問三 問四 問五

問六 A B C 問七 I

問七 II III 問八 (1) (2) (3)

問九 問十 問十二

問十一

受験番号
<input type="text"/>
得点
<input type="text"/>

